保健物理, **51** (3), 175 ～ 176 (2016)

話　題

日本保健物理学会第 49 回研究発表会 実施報告

大会長　床次　眞司*[1]

平成 28 年 6 月 30 日（木），7 月 1 日（金）の 2 日間，青森県弘前市の弘前文化センターにおいて日本保健物理学会第 49 回研究発表会を開催しました。2011 年 3 月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故からちょうど 5 年が経過した第 49 回研究発表会では，多くの国民の重大な関心事となっている放射線の人体や環境への影響や将来への不安など，保健物理学に関するさまざまな課題についての新たな知見を加えた議論が行われました。

大会は以下の体制で準備を進めました。

実行委員会委員（順不同）

床次　眞司	弘前大学（大会長）
岡村　泰治	日本原燃（株）（副大会長）
赤田　尚史	核融合科学研究所
石川　徹夫	福島県立医科大学
大森　康孝	福島県立医科大学
工藤　ひろみ	弘前大学
真田　哲也	北海道科学大学
神　　俊雄	青森県原子力センター
細田　正洋	弘前大学
青柳　義則	（株）アトックス
佐藤　　正	（株）千代田テクノル
千葉　照彦	富士電機（株）
畑山　正人	（株）日立製作所
副島　邦洋	（株）国際広報企画（学会事務局）
岩岡　和輝	弘前大学（大会事務局長）

参加者は非会員を含め約 320 名が参加し，108 件（口頭 61 件, ポスター 47 件）の研究成果が報告されました。口頭発表では以下に示す 10 のセッションに分類しました（カッコ内は演題数）。

1）　環境放射線（4）
2）　ラドン（5）
3）　放射線計測（7）
4）　線量評価（7）
5）　放射線影響（5）
6）　医療被ばく（6）
7）　福島原発事故関連（14）
8）　防災・緊急時対応（3）
9）　現場の保健物理／管理・保全（6）
10）廃棄物及びその他（4）

11 年ぶりの青森県での開催となりましたが，久しぶりに 300 名を超える参加者のもとで盛大な研究発表会を執り行うことができました。ご多忙の中，参加いただきました多くの大学・研究機関の先生方及び企業の皆様に心から御礼申し上げます。

本研究発表会では，口頭発表及びポスター発表の他に各専門委員会や研究会による 10 件の企画セッションや，2 件の特別セッションが行われました。

企画セッションでは，日本保健物理学会にある各専門委員会や研究会の活動状況や喫緊の課題に関する講演が行われ，特に「内部被ばく影響評価委員会」では，テレビ報道関係者による取材も行われるなど注目度の高さがうかがえました。

特別セッションでは，「診断参考レベルの紹介」「医学物理と医学物理士」の 2 件が行われました。前者では，日本保健物理学会も団体会員として参加している医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）が 2015 年に設定した医療放射線分野の診断参考レベルが紹介されました。後者では，実際の医療機関で活躍されている医学物理士の方から，これまでの医学物理分野の流れや，これからの取り組みなどについて紹介されました。

ポスター発表では優秀賞を設け，懇親会にて授与式を執り行いました。本研究発表会では，公正で中立な選考を行うために，大会長以外の大会実行委員 14 名それぞれが，筆頭及び共同発表者となっていない発表の中から最も優れていると思われる発表を選び，その中から大会長が優秀賞を選ぶという方式としました。ポスター発表優秀賞に選ばれた演題名と発表者は以下に示す通りです。

Shinji Tokonami; The Report on the 49th Annual Meeting of Japan Health Physics Society.
*[1] 弘前大学被ばく医療総合研究所放射線物理学部門；青森県弘前市本町 66−1（〒 036−8564）
Department of Radiation Physics, Institute of Radiation Emergency Medicine, Hirosaki University; 66−1 Honcho, Hirosaki-shi, Aomori 036−8564, Japan.
E-mail: tokonami@hirosaki-u.ac.jp

・ホットスポット測定が可能となるGeカーボーンシステムの開発：生田美抄夫，金山　隆，渡部奈津子，倉橋雅宗，田中孝典，西　浩幸（島根県原子力環境センター）

懇親会は，津軽弘前をテーマに全国チャンピオンらによる津軽三味線の大合奏をご披露し，参加者の皆様にはご堪能頂けたかと思います。また，豊盃や田酒などの青森の銘酒試飲コーナーもご用意し，こちらもお楽しみ頂けたかと思います。

今回の研究発表会では，口頭発表及びポスター発表ともに多くの価値ある研究成果が報告されました。このように，保健物理学に関するさまざまな課題について，一堂に会して情報共有・意見交換することができ，大変嬉しく思っております。

第50回研究発表会は甲斐倫明（大分県立看護科学大学）大会長の下，大分県において日本放射線安全管理学会との共同開催予定です。九州・大分の趣向を凝らした大会を楽しみとしております。

床次　眞司（とこなみ　しんじ）
1964年鹿児島県出身。弘前大学被ばく医療総合研究所放射線物理学部門教授。博士（工学）。
専門分野は放射線計測と線量評価。最近では，放射線災害事故時に放出される放射性プルームを迅速に評価するための測定器の開発を行っている。